

No.1889

11月10日例会 プログラム 「ロータリー財団月間に因んで」 ロータリー財団委員長 三宅 保昭君

11月17日例会 プログラム 「キリマンジャロ」 林 実君

11月10日のメニュー ・ローストポーク ・季節のサラダ ・バケット&バターロール ・デザート ・コーヒー

前回(10月27日)例会記録

出席報告	会員総数	40名(内出席規定適用免除者2名)	出席者数	26名	欠席者数	12名	出席率	68.42%	前回補正率	78.95%
	前回補正者	藤田君 三谷君 難波君								
	欠席者	藤田君 藤原君 福森君 花岡君 井上君 松王君 三谷君 三宅(照)君 中山君 難波君 大久保君 山田(次)君								

会長挨拶

こんにちは。例会出席ありがとうございます。先週の挨拶の時、稲刈りの話をしましたが、今日の新聞を見るとやはり作柄はやや不良でした。玄米の回収業者も、小米の買い付けを優先的に行っています。というも1等米、2等米という品質の良いものはお金を出せば買えますが、小米は流通経路が決まっていないので、早い者勝ちということになります。それと小米は再選別をして良いものは白米として売り、その後はせんべい屋さん、その後は小鳥のえさというように全て使えます。県南121箇所、各1坪稲刈り収穫し、その平均値で作況指数を出します。岡山県の標準収量は1アール当り534kgです。今年の作況指数は97ですので収量517kgとなりやや不良です。以上先週の補足説明です。お食事をどうぞ。

会長報告

- ・ 今月28日、29日の米子での地区大会への参加者はスケジュール確認の上、よろしくご出席ください。

幹事報告

- ・ 玉野商工会議所より宇野港シーサイドパークに桜の公園・桜の並木道を造る為の協賛並びに管理ボランティア募集の協力依頼が届いております。
- ・ 財団法人麻薬・覚醒剤乱用防止センターより[ダム。ゼツタイダム]の募金活動協力に対するお礼状と報告が届いております。
- ・ 11月よりロータリーレートが1ドル=118円に変更になります。(現行114円)
- ・ 来週11月3日(金)例会は祝日(文化の日)のため休会です。
- ・ 他クラブの週報・例会変更通知は回覧いたします。

三宅保昭君より花の紹介

これはサツマイモの花で大変貴重なもの、先日も新聞で紹介されていました。

サツマイモは短日植物で日照時間が短くなると栄養成長から生殖成長へと変わり、花を咲かせ次の世代を作る植物です。ムラサキ芋は栄養価値を期待され最近注目されており、私も今年初めて苗を購入し育てたところ、思いがけず2週間前から花をつけました。再び見ることが出来ないかもしれないほど大変貴重なものです。



委員会報告

- ・ インターネット委員会(三宅(一)委員長): 玉野RCホームページをリニューアル、掲示板を新設しました。会員へのお知らせ、情報交換に活用願います。また大阪リバーサイドRCホームページへもリンクできるようになりました。

スマイル・ボックス

- ・ 富永君 - 三宅さん、いつも花をありがとうございます。孫が誕生しました。
- ・ 仲田君 - 宮原キャプテン就任記念コンペで優勝しました。
- ・ 谷口君 - バッチを忘れました。 ・ 立石君 - 本日早退。 ・ 東川君 - 例会欠席。

「歌は世につれ、世は歌につれ」とか言われまして、流行した歌がその時代、出来事を思い出させるものです。歌以外にも、その時代を偲ばせることは数々あると思います。大相撲もその一つでしょう。当時（昭和46年後半から48年頃）大活躍をした横綱は北の富士、大関琴桜、関脇長谷川同じく輪島、前頭の高見山同じく栃東など、申し上げれば数々の名力士と名勝負が上げられます。感銘を受けた大勝負も思い出されるでしょう。後に琴桜は第53代横綱、輪島は第54代横綱となり、名勝負を残しました。続いて第55代横綱北の湖の横綱昇進は昭和49年9月、弱冠21歳の時でした。引退が昭和60年、31歳の時です。約11年間横綱を張って、維持できたのは心身ともに鍛えられた証でしょう。とても素晴らしいことだと思います。この時代、皆様方におかれましてはいかがお過ごしでいらっしゃいましたでしょうか???

私は昭和46年11月、29歳の頃玉野市玉2丁目において独立開業しました。開業と申しまして、5坪ほどの小さな店で細々と一人で商売を始めました。顧客もなく、来る日も来る日も、随分暇な日が続きました。元来自分は楽天的な性格だと思っていたのですが、商売はそう簡単に「うまく」行きません。そんな中、楽しく過ごせる方法はテレビによる相撲観戦でした。

歳若くして角界に入門する人、学生相撲で力をつけて入門する人、星雲の志を持って将来の関取を目指し、大きな希望を胸に、早朝より猛稽古に猛稽古を積み重ね頑張っている話を聞くと、自分も頑張らなければと思い、親しみを覚えました。角界に入って毎日毎日の厳しい朝稽古はまずは準備運動から始め、そして四股、股割り、摺り足、鉄砲の後、実践稽古に入ります。実践稽古には代表的なものとして「申し合い」「三番稽古」があります。三番稽古は実力のほとんど同じ力士が、二人で何番も続けて行う稽古です。三番というのは、数が多いという意味で、「三番いこう」といえば二人で納得するまで稽古しようという意味です。「申し合い」は実力のあまり変わらない力士同士が、勝ち抜き戦を行い、勝った力士が次の相手を指名し、対戦相手を変えながら稽古を続ける方法で、勝ち続けるといつまでも土俵を占領し稽古が出来るので、更に強くなる。そして仕上げに行うぶつかり稽古は、受ける方とぶつかる方に分かれ、受ける方は防御と足腰の稽古、ぶつかる方は押しの稽古と倒れる時の受身の稽古をします。最も基本的な稽古で、最後に整理体操で締めくくります。柔軟な体と、強靱な足腰を鍛錬しながら、怪我には注意を払い基本を積み重ねる。相撲界には「三年先の稽古」という言葉があります。目先だけにとらわれず、基本をしっかりと身につけるということです。

力士が熱戦を繰り広げる「土俵」は、本場所の5、6日前から呼び出しが全員総出で三日がかりで作ります。土俵は一辺が6m70cmの正方形で、高さが54cmから60cm位です。荒木田という粘土質の土を、四股を踏んでも足跡がつかない硬さに突き固め、砂を入れます。そして土俵の中心を定め、縄を使って直径4m55cm（15尺）の円を描き、鍬で俵を埋め込む溝を掘ります。そこへ土を入れた「勝負俵」を6分土に埋め、4分を地上に出します。俵ののぞいている高さは約5cm程度です。また東西南北の中央部分に1俵分、外側にずらして埋めた俵が1つずつあります。「徳俵」といわれます。

本場所の進行については、奇数日は東方、偶数日は西方から行われます。十両以上の取り組みでは、自分の取り組みの2番前に控えに入り、呼び出しの声で東西の力士が土俵に上がります。一礼を交わし、東方力士は赤房下、西方力士は白房下で四股を踏んだ後、前の一番で勝った力士が控えの力士が差し出す柄杓の水を受けて口をすすぎ、力紙（化粧紙）と呼ばれる薄紙で口をぬぐいます。この水は「力水」または「化粧水」と呼ばれ、水で心身を清めて、神聖な土俵上での戦いに臨むという意味表示であり、清めの水とも呼ばれます。そしてこの一連の動作は「力水をつける」と言われます。

両力士は土俵上に塩を撒き、徳俵で蹲踞の姿勢で両手を下八の字に開いて、柏手を打ち、腕を左右に広げて、上向きにした手を下に返す。これは塵を切ると言います。「塵」とは塵浄水の略で、その昔、野天で相撲を取ったときに雑草をむしりとり、手を清めたのが始まりとされ、何も武器を持たず正々堂々と戦いますという決意の表現でもあるそうです。両力士は塩をまき、土俵中央仕切り線外側で四股を踏み、仕切りにかかります。数回仕切りを繰り返し、立ち合いとなります。裸と裸のぶつかり合い、互いに力を振り絞り戦う、真剣勝負です。平素培われた技が発揮されるのがここです。体重別、身長別等のハンデ差はありません。なかなか勝負がつかなければそれが本当の「大相撲」です。

その当時、日本の国技大相撲は最強の格闘技だと私は思っていました。観戦にも熱が入りました。皆様方におかれまして、ファンの関取が登場すると、拍手して頑張れよと声援を挙げたものではありませんか。テレビを観て相撲ファンとなられた方も数多くいらっしゃるのではないのでしょうか。力のこもった、見ごたえのある相撲の取り組みはいつまでも語り続けられ、それぞれの印象を思い出させるのではないのでしょうか。

相撲の世界では年寄、行司、呼び出し等65歳の誕生日で定年となります。私も来年の9月4日で65歳となりますが、定年となれるのでしょうか。今の商売から足が洗えるのでしょうか。通常は60歳が来ると長年勤務された仕事から、足が洗えるのですが、場合によっては自動足洗い機にかかり綺麗さっぱりと足が洗えるのですが、私には、足を洗わせてもらえません。

昭和44年8月頃より、テレビの人気番組「水戸黄門」が始まり、その再放送を観るのも楽しみの一つでした。主題歌「ああ人生に涙あり」「人生～楽ありや苦もあるさ、涙のあ～とは虹も出る、歩いてゆくん～だ、しっかりと、自分の道を踏みしめて」このテーマソングに歌われるように、「人生いろいろ」島倉千代子さんです。時間となりました。何をお話したかよく分かりませんが、ご清聴ありがとうございました。